

国公立戦 部便り

2016年6月号

目次

1. 講評

1.1 監督より

1.2 主将・女子主将より

2. 試合経過

3. 試合結果

4. 自己記録更新者一覧

5. 2016年度部内五傑

6. 主務より

6.1 応援OB・OG紹介

6.2 連絡先

1. 講評

1.1 監督より

監督・藤田靖浩

今回の国公立戦は男子は総合2位、女子は3位。女子はまんべんなく入賞者を出し、800メートルで高石が2分13秒91の東大記録を出すなどまずまずの結果でしたが、男子は東京学芸大学との実力差が大きく出てしまいました。

関東インカレ直後ということで好記録は少なかったものの、4年森本が400メートルで48秒85、3年妹背が1500メートルで3分55秒74、2年木下が三段跳で14メートル60、走幅跳で7メートル00、女子走幅跳で1年内山が5メートル44と、特に下級生の活躍が目立ちました。

七大戦まであと2ヶ月、1年生もそろそろ本格稼働してきましたので、2番手、3番手の実力を引き上げるべく練習に励んで参ります。

1.2 主将・女子主将より

主将・吉田侑弥

今回の国公立戦は関東インカレ直後ということもあり、下級生を積極的に採用した比較的フレッシュな選手層で臨みました。総合結果は、東京学芸大学に大差をつけられての2位。インカレの疲労が残る中という条件は互いに同じですから、実力の差というものを如実に突きつけられた悔しい結果となりました。

しかしながらこれは良くも悪くも想定通りの結果であり、裏を返せば最低限実力通りの結果を残すという、対校選手としての役割を多くの選手が果たしてくれたものであるとも解釈できます。対校としての経験が浅い選手も多くが入賞し、得点をしてくれたことから、確実に選手層が厚くなってきたことを実感しています。

幸い、東京学芸大学にはもう一度再戦の機会があります。夏以降に控える七大戦や京大戦で優勝を果たせるかどうか、その実力を問う試金石として四大戦に臨み、

必ず雪辱を果たします。

最後になりましたが、OB・OGの皆様から日頃より多大なるご支援をいただいておりますことを、部員一同心より感謝しております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

女子主将・白形優依

国公立戦は女子パートとして「無理やり複数種目兼ねる必要はなく、自分の専門種目でしっかり点を獲得する」という方針で臨みました。結果、昨年より総得点・順位を上げることはできましたが、2位の東外大には5点及ばず、3位に終わりました。各個人の結果を見てみるとトラック種目を中心に自己ベストが相次ぎ、特に高石(2)は前週の関東インカレに引き続き800mで東大記録を更新、荒木(2)は一冬で10秒近くPBを短縮し関東新人の標準を突破、3000mでは藤原(2)と高石(2)が戦略通りの走りを見せ1・2フィニッシュし共にPB更新、と充実した内容であったと思います。また、フィールドでは内山(1)が走幅跳で5m44と1年生ながら堅実に結果を残しています。

今シーズンチームとしての目標は「七大戦・京大戦での優勝」です。例年同様人数不足は否めないものの、それぞれ力を着実に付けており、達成できる目標だと思っています。関カレ・国公立戦といい流れでシーズンに入っているのも、四大戦でも引き続き良い結果を残せるよう練習に取り組んで参ります。今後ともご支援よろしくお願いいたします。

2. 試合経過

◎トラック種目

9:00 男子 1500m タイムレース決勝

当日は晴天で風も気にならず、レースには絶好のコンディションであった。1組目に加藤(4年)、妹背(3年)の2名が出場。両名ともに得点、好記録で、国公立戦最初の対校種目としてチームに勢いをもたらすこと

が期待される。

スタート直後加藤がやや出遅れるもすぐに立て直し、妹背、加藤の順に4番手、5番手で1周目を63秒で通過。その後妹背は第1集団最後尾の4番手、加藤はそのすぐ後ろの第2集団につき全体の6番手、という構図のまま、しばらく順位の変動はなくなる。700m付近で加藤が前をうかがうような動きを見せるも、そのままの構図で2周目を妹背2'06、加藤2'07で通過。そして1000m通過直後、まずは加藤が動く。ペースを上げ5番手に立つと、そのまま後続を徐々に引き離しにかかる。同時に妹背も3番手に躍り出て、ペースアップした先頭の選手に食らいつく。3周目を3'09で通過しさらに加速して一時は2番手になるも、最後の直線で競り負け3'55"74の3位で6点獲得。一方加藤は後続を大きく引き離して3周目を5番手の3'11で通過するも、猛烈な追い上げを見せた6番手の選手に最終コーナーで先行を許し、4'00"64の6位、3点獲得であった。

両名とも自己ベスト、さらに妹背は関東インカレB標準突破の好記録であり、合計9点を獲得して期待通りチームを勢いづけてくれた。



3年妹背(右)と4年加藤(左)

9:15 男子 400m 予選

1組1レーンに箕島(4年)が出場。参考記録では組内

3位であるが、積極的な走りを見せ決勝当確の2着以内に入りたいところ。前半3レーンの選手に差をつけられるが追いすがり、後半徐々にその差を詰めたが、結局3着で記録は50"54であった。

2組7レーンに藤田(健)(4年)が出場。こちらも参考記録では組内3位であるが、プラス2を狙わず2着以内を目指したい。前半100mで8レーンの選手を追い抜く積極的なスタートを見せるが200m付近で6レーンの選手に並ばれ追い抜かれる。しかしそれ以上差をつけられることなく並走するがラスト100mで捕らえきれず、また4レーンの選手にラスト150mで抜かれ、50"48の3着であった。

3組8レーンに森本(4年)が出場。参考記録は組内1位であり、2着以内に入るだけでなく余裕のある走りで体力を温存したい。ゆったりとしたスタートで200m付近で5レーンの選手に並ばれてしまう。しかしそこから一気にスピードを上げてラスト100mで抜き去り、最後は後ろを見ながら余裕の2着。記録は50"76であった。

9:30 男子 100m 予選

2組7レーンに渡辺(2年)が出場。左足のハムストリングの痛みがあり、心配される中での出場となった。参考記録は11"56。対抗選手であることを考えて今回の目標は11"10。

スタートは上体が早くに起き上がってしまい、そこで周りの選手との差ができてしまった。上体が起き上がったまま加速していくことになった。差が開いてリラックスできず少し筋力に頼った走りになった。レース途中でハムストリングに違和感を感じたそうだが、後半は前を走る選手と差が開くこともなく走りきった。

記録は11"51(+0.6)であった。痛みがある中でのレースだったが、大学でのベスト記録となった。万全の状態のレースではさらに記録を更新することが期待される。

3組5レーンに松本(4年)が出場。参考記録は10"95で、タイムは対抗男子100mに出場した3人の中でトップ。上位入賞が期待される。

予選はスタートから2レーンの選手が飛び出し、それを追う形になったが、徐々に差を詰め僅差で2着でフィニッシュし決勝進出を決めた。スタートからトップスピードまでスムーズに走った。上半身がほとんどぶれず、走りが安定していて、良い走りだった。調子が上がっているように思われた。後半も失速することなく力強く走った。100mは51歩で走った。

タイムは自己ベストの10"90(+0.7)だった。春の記録会で出した自己記録を更新した。2週続けてのレースだったが、疲労も感じさせない走りだった。出場した3人の中で唯一の決勝進出者となった。

4組2レーンに岡田(4年)が出場した。参考記録は11"38。初めての対抗選手だったが、レース前には笑顔も見られた。

スタートは良かったが、トップスピードのときから少しずつ遅れた。そのまま徐々に差が開いていった。タイムは11"34だった。決勝進出はならなかった。

10:10 女子 100m 予選

1組4レーンに笠村(4年)が出場。参考記録は13"18。対抗女子100mは9名の出場となったので決勝進出の可能性は高い。決勝進出には組4着以内に入ればよい。

レースは前半少し遅れたものの、そこからスピードを上げ1人抜いて組4着でフィニッシュした。笠村はこの時点で決勝進出が決まった。記録は13"76。

2組3レーンには白形(4年)が出場。4人でのレースになった。

スタートから4レーンの選手が飛び出し、白形は5レーンと6レーンの選手と競る形になった。5レーンの選手は少し前に出たが、白形は6レーンの選手とほぼ同時にフィニッシュした。結果は組4着だが決勝に進出した。記録は13"22。

10:30 男子 110mH タイムレース決勝

1組6レーンに杉森(6年)の出場。持ちタイムでは全体の3番手であり十分実力者と言えるが、今回のレースに関してはかなり練習不足な状態で臨むこととなってしまった。

スタートの反応は悪くなく、前半勢いよく飛び出す。3台目までは先頭勢と横一線に並びいい走りを見せたが、後半は練習不足がたたったか、インターバルが段々と間延びし、16"92で8着に終わった。風は向かい風0.8mであった。

自己ベストが15"04であるだけに、この結果はかなり残念なものとなった。しかし、司法試験の勉強が一段落ついたので、これから14秒台に向け再スタートを切ると本人は威勢よく語っており期待がかかる。

2組5レーンに寶田(3年)、8レーンに加来(4年)の出場。十種競技を専門とする2人は今回の試合110mHのみならず多くの種目に出場したが、1種目めとなるこの110mHで良いスタートを切ることが出来るか期待がかかった。申請記録未発表の選手もいるが、加来・寶田のワンツーフィニッシュが十分に期待できる。

号砲が鳴ると、スタートを得意とする加来がアプローチで他の選手を体一つ離し1台目に入る。110mHにおいて最重要とされる1台目をうまい形で入れたことで、その後の走りもスムーズにいき16"15の組1着でゴールした。寶田も東農工大の相馬と競りながらも、インターバルを懸命に走り加来に続いて2着16"59でゴールすることができた。

加来と寶田が出場したこの2組は向かい風2.8mとタイムが出にくいレースになってしまったが、向かい風でも15秒台をコンスタントに出すことができれば自己ベスト更新にも期待がかかる。

10:55 男子 200m 予選

1組4レーンに松本(4年)の出場。100mに比べて試合経験が少ないという不安要素はあるものの、100m予選でPBを更新したことから調子の良さが伺える。

前半、少し力を抑えながらも、コーナーを抜けた時点でトップを走る。ラストを流して2着でゴールするも、記録は22"10とPBを更新。決勝ではさらなる更新が期待される

2組7レーンに河野(3年)の出場。前半で突っ込みすぎることなく余裕を残してコーナーを通過。この時点では1、2番手を走る選手に差を付けられていたものの、ラスト50mで巻き返しを見せ、フィニッシュ直前に2番手の選手を抜き去りゴール。22"65で決勝への切符を手にした。

3組3レーンに箕島(4年)の出場。400m予選による疲労が懸念される中でのスタート。さすが4年生と言うべきか、疲労を感じさせない力強い加速をみせ、120mあたりを通過した時点で2位につける。一時は先頭を走るも、他の選手の猛烈な追い上げを受け、3着22"48でフィニッシュ。惜しくも決勝進出を逃す結果となってしまった。

11:10 男子 800m 予選

1組2レーンに軽部(4年)、3組7レーンに下村(3年)、4組8レーンに早川(3年)の出場。予報通りの快晴で気温、日差しともに選手たちにとって走りやすい天候であった。軽部は関カレから2週連続という難しいレースであるが、持ちタイムは全体のトップであり優勝候補筆頭である。早川は持ちタイムは全体の7番目であり、入賞を狙える位置にいる。下村も1分台の自己ベストを持ち、レース展開によっては入賞も十分にあり得る。

1組の軽部は前半から積極的なレースを見せ、1周目を1番手で54"9で通過。2周目も他の選手を全く寄せ付けない走りで1'53"59の1着でゴール。この記録は1988年に樹立された大会記録1'53"60を塗り替えて大会記録となった。

3組の下村は前半落ち着いた走りを見せ、1周目を3番手で58"8で通過。2周目の550m付近で勝負を仕掛けて1番手になったが、ラストで後続の選手に追い抜かれ2'00"31の2着でゴール。

4組の早川は前半から積極的に先頭を走り、1周目を58"2で通過。2周目の600m手前で3番手まで後退したが、ラストに粘りを見せて1着の選手とほとんど差のない1'59"62の2着でゴール。

軽部は1着で決勝進出。早川はタイムで拾われて決勝に進出。下村は惜しくも決勝進出とはならなかった。

11:55 男子 5000mW 決勝

櫻井(4年)、宇野(4年)、堀江(2年)の出場。天気は快晴、気温は28.5℃と長距離種目にとっては厳しい条件になった。関カレの舞台を経験した宇野の歩きが注目される。

スタートから集団は縦長となり、宇野は東学大の選手をマークし3周目まで2位争いを展開する。しかし1200m手前で給水をとった隙を狙われ東学大の選手に離されてしまい、以降前後の東学大の選手と80mほど離れて単独で三番手を歩くことになる。一方、堀江、櫻井はスタート直後から5位集団を形成、櫻井は積極的に集団を牽引し、堀江は集団後方で様子を窺う。1200m付近で堀江は帽子を取り1600m手前で給水、集団の先頭に立つ。2000m付近で一橋大の選手を振り切り堀江、櫻井による5位集団が再形成され、3000m付近で堀江と櫻井の差が開くも櫻井は我慢し堀江に追いつく。その後は2人で前後しながらレースを進める。宇野は終始安定したラップを刻んだがレースの流れを変えられず22'09"42の3位でゴール。5位集団を形成していた櫻井、堀江は暑さのためかペースが若干落ち気味になり、残り600mで櫻井がスパート。堀江もついていく。ホームストレートに入ってから熾烈な争いを繰り広げたが、わずかに堀江が先行し堀江は23'31"78の5位、櫻井は23'32"37の6位でゴールした。

3人で計13点を獲得。堀江は中盤苦しそうな表情を浮かべていたが、今年の今大会と比較してみると成長は明らかであり、まだ2年であることを考慮しても今後が期待される。

12:30 男子 100m 決勝

7レーンに松本(4年)が出場。上位入賞が期待される。松本は対抗男子200mのレースから時間が経っておらず、疲労もあったと思われる。予選よりは条件が悪かった。

松本のスタートと加速は良かったが、レースの前半の40m地点では3人が松本の前にいた。レースの中盤は、3レーンと4レーンの選手とは60m地点ですでに差が開いていた。少しずつ差は縮まっていったが、2人には追いつかず、80m地点で松本より少し前にいた1レーンの選手とほぼ同時にゴールした。どちらが先着したかわからなかったが、結果は松本が10"90で3位に入った。

風は-1.5mで条件は良くなかったが、予選で出したベストと同じタイムだった。怪我も含めて調子の合わせ方や調整の仕方に改善の余地があると思われるが、万全の状態でも風が無ければ10"7台も出ていたかもしれない好タイムだった。

12:35 女子 100m 決勝

1レーンに笠村(4年)、2レーンに白形(4年)が出場した。より高い得点が期待される。

レースは、スタート直後はあまり差がなかったが30m以降に大きな差がついた。東京学芸大学の2人の選手が前に出て、白形はその後に続き3人の選手と競った。4人は後半もわずかな差で、横並びの状態になった。この4人はほぼ同時にゴールした。白形は13"27で5位に入った。

笠村は加速し終わった段階で前と差が開いており、そのまま差が縮まることはなかった。8レーンの選手と同着くらいかと思われたが、笠村は13"95で8位に入った。笠村は多くの種目に出場し、難しいレースだった。

白形が4点、笠村が1点獲得した。

12:45 男子 400m 決勝

プラス2で箕島(4年)、藤田(健)(4年)も決勝に進出。両人には少しでも上の順位に入って得点を上積みすることが求められる。また予選を予定通りの余裕のある走りで通過した森本(4年)は上位でフィニッシュしたい。箕島が1レーン、藤田が2レーン、森本が8レーンで出場。

森本はいつも通りのゆったりとしたスタート、対して箕島、藤田はやや積極的なスタートで外側のレーンの選手との見た目の差を少しずつ詰めていく。200m付近に差し掛かり、ここで森本が一気にギアを上げ、前にいる選手を追い抜きにかかる。箕島、藤田は前の選手との差が広がり始めた。ラスト100mの時点で森本が4位、藤田と箕島は5位争いか。ここからスピードに乗った森本がそのままの勢いでフィニッシュし1位2位3位がほぼ同着の3着で記録は自己最高の48"85。藤田、箕島は減速しつつも最後まで粘り箕島が自己ベストの50"22で6着、藤田が50"50の7着であった。

森本はこの結果を弾みにして全体集合での宣言通り、七大戦での47秒台を期待したい。箕島、藤田にもぜひ49台を狙ってもらい、チーム全体の底上げを図ってほしい。

14:10 男子 200m 決勝

3レーンに松本(4年)、8レーンに河野(3年)の出場。両選手共に予選から良い流れで決勝に進出しており、上位入賞への期待が高まる。松本に関しては、優勝も視野に入れてレースを引っ張りたいところだ。

一同がそのような期待につつまれる中、スタートの号砲が鳴る。両選手とも中々の反応でスタートし、カーブを走り抜ける。松本は2番手でレースを引っ張る走りを見せ、河野も展開次第では十分上位を狙える位置に着ける。コーナーを通過した時点で松本は1番手を僅差で追う展開になり、応援にも熱が入る。河野は少し出遅れたか。結局、松本は1番手の選手を捉えきることができず、2着でフィニッシュ。その後河野が

8着でフィニッシュし、200m決勝が終了した。記録は向かい風1.0mの中松本が22"00で堂々のPB、河野が22"69であった。

14:20 男子 400mH タイムレース決勝

1組2レーンに加来(4年)の出場。十種競技を専門にしておき、練習時間を多く割くことはできなかったであろうが、他の種目でも確実に調子を上げてきており、上位に入り点数も期待できる。

号砲とともにスタート。1台目をスムーズに越え、外側のレーンの選手について行っている。中盤にかけても安定した走りで、3位争いのまま最後の直線へ。惜しくも10台目のハードルでバランスを崩し、4位でフィニッシュ。自己ベストを出して、さらなる記録に期待がかかるレースであった。

2組2レーンには今井(3年)が出場。今日に向けて練習を積んできており、好記録を狙えるか。

スタートして1台目はきれいな滑り出し。しかし、そのあとは離されて、巻き返しもならず6着でゴール。63"96のベストを出して、今後の成長に期待がかかる。

14:35 男子 800m 決勝

1組3レーンに軽部(4年)、8レーンに早川(3年)の出場。予選と同じように走りやすい気温で選手にとっては良い天候であった。両名とも順当に決勝へ駒を進めており、この種目でも大量得点が期待される。

1周目は軽部が集団を引っ張り、早川は集団後方につく形になった。ゆったりと落ち着いたペースで推移し、1周目の通過は軽部が1番手で61"0、早川が7番手で61"5であった。軽部は2周目に入ると徐々に加速して、バックストレートで後続を突き放し、そのまま他を寄せ付けることなく、1'57"41の1位でゴール。早川も2周目に入るとペースを上げて、600m過ぎでは4番手まで浮上したが、ラストの直線で1人に追い抜かれて、2'00"96の5位でゴール。

軽部はランキング通り1位となり8点を獲得。早川

は持ちタイムでは全体の7番目であったが5位に食い込み、4点を獲得。結果としてこの種目だけで12点を獲得した。期待以上の結果ではあるが3選手全員が決勝に進出することができなかったことも含めて、まだ成長の余地はある。中距離の今後の成長に期待したい。



4年軽部(右)と3年早川(左)

14:45 女子 800m タイムレース決勝

1組1レーンに荒木(2年)、同じく6レーンに高石(2年)が出場。荒木は先日の日体長にて自己ベスト、高石は先週行われた関東インカレで2'13"93の東大記録を出し準決勝へ進んでおり、両名とも得点獲得が期待された。

スタート直後から3、4レーンにいた東京学芸大学の2選手が飛び出し、ブレイク後バックストレートでその2選手の後方10mほどで高石が3番手、荒木はさらにその後方20mほどにある4位集団の最後尾で全体の7番手につけた。400m手前で荒木は集団内で1人抜きし全体の6番手に上がる。そして最初の400mの通過は高石が63"3で荒木が70"0。400m以降も1、2番手の東京学芸大学の2選手のペースはあまり落ちず高石は1人で走る事となった。荒木は4位集団に食らいつき7番手の選手を突き放すも、ラスト200mからの前2人のスパートに対応できず、その2選手からは離された。両選手とも最後まで前との差は縮まらず、そのまま高石は2'13"91で3位、荒木は2'25"38で6

位に入った。

両選手ともに実力を十分に発揮し、合計で9点を獲得した。高石は先週に引き続き東大記録を更新し、荒木も関東学生新人の標準記録を突破するなど、両名とも好記録を出してチーム全体に勢いを与えた。この流れのまま今後の対抗戦、関東学生新人でも活躍してほしい。

15:05 男子 4×100mR タイムレース決勝

1組5レーンでの出場。1走藤田健一(4年)、2走松本大樹(4年)、3走福田優貴(3年)、アンカーは竹井尚也(D1)が務める。申請記録では3レーンを走る東学大(39"84)について2番手(40"70)であり、両校による優勝争いが予想された。

やや曇りがかった空、バックストレート追い風のコンディションの下、号砲が耳を劈く。400mのレースを終えた藤田であったが、その疲れを微塵も感じさせない走りでもバトンを繋ぐ。受け取るのは松本。先ほどの100mは10"90の自己ベストをマークした快足は、見た目は前を走る他校の選手との間隔を著しく詰めていく。彼の走りは他の追従を許さない。

勝利を手にするかと誰もが期待した矢先、悲劇は突然訪れた。2、3走間のバトンミス。失格の烙印を焼き付けられながらも、福田は竹井にバトンを繋ぐ。全力でゴールを駆け抜けた竹井。虚しさと悔しさを振り切るかの如く。

個々人の力だけでは勝てないことを改めて痛感させられた試合であった。技術に磨きをかけ、東大4継はリベンジを誓う。

15:15 男子 5000m 決勝

レース時は暑さと風があり長距離には厳しいコンディションだった。スタートしてすぐに松井が飛び出し5人の第1集団と残りの第2集団に分離した。先頭は1000mを2'55というハイペースで通過。3人含む第2集団は3'04という比較的スローペースで通過。

目論見通りのレース展開である。第1集団はその後松井の単独走となり、第2集団は2000mを6'13、3000mを9'20で通過。3人とも落ち着いて集団内で力を温存していた。

しかし3000m過ぎから田村の口が大きく開き集団につけなくなる。坂出も離れまいと粘るがジリジリと離されてしまう。4000mを12'29で通過した織原はスローペースに痺れを切らし集団の先頭に立った。応援席が沸き上がった。しかし他の選手たちのラスト600mからのスパートには対応することができず、15'29"34の8位でゴールした。坂出は15'47"99の11位、田村は16'13"28の16位で得点には絡めずレースを終えた。

今回は近藤の怪我に加え、対校選手で出場した3人も満足いく調子で迎えることができずパートとしての調整力不足が露呈した。一方、坂出と田村が対校戦デビューを飾り経験値を高めたという収穫もあった。今回の結果を受けて中堅層のレベルアップを図り、以降の対校戦では上位を独占したい。

15:40 女子 3000m 決勝

2レーンに高石(2年)、12レーンに藤原(2年)の出場。天気は晴れで風もほとんど吹かず競技しやすい環境であった。藤原は最近1500mでベストを更新しており、高石も50分前に800mを走っていて疲労が心配だったが、その800mでベストを更新するなど好調な様子で、2人の大量得点が期待できるレースであった。

レースは序盤から4人の先頭集団を形成し、高石、藤原の両選手が引っ張る形となった。1000mを高石が1位、藤原が2位で通過。1000mの通過は共に3'37。1000mから2000mで走りや順位に大きな変化はなく2000mも高石が1位、藤原が2位で通過。2000mの通過は7'16で最初の1000mとほぼ同じペースで走っていた。ラスト800mから両選手ともペースを上げて先頭集団にいた残り2人を置いていき、東大の2選手で競るかたちになる。ラスト500mで藤原が前に出たが、ラスト200mから高石がスパートをかけて藤原を

引き離した。結果は高石が10'42"47の1位、藤原が10'47"13の2位であった。

両選手とも実力を発揮し、この種目で東大は15点獲得した。両選手とも自己ベストを更新するなど、見事な走りで見事な走りを見せ、スタンドを沸かせ、東大女子3位入賞に大きく貢献した。残る対校戦でも活躍を期待したい。



2年高石(右)と2年藤原(左)

16:05 男子 4×400mR 決勝

1組4レーンに東大の出場。オーダーは森本(4年)-河野(3年)-藤田(健)(4年)-箕島(4年)の順番である。申請記録上では、トップの学芸に対して7秒近い差があるが、同日行われた400mの決勝に森本、藤田、箕島の3人全員が進出し、特に森本、箕島がベストを更新したり、また河野も200の決勝に進むなど調子の良いメンバーであったので、学芸のペースについていけば、先日関東インカレでマークした3'18"54を大幅に更新することも期待された。

晴天の中、号砲が鳴りスタート。森本はいつも通り前半を抑え気味に走り、1つ外側との学芸との差は開いていったが、200m過ぎでギアをあげ3レーンの一橋を突き放し、学芸を猛追する。そして、2番手で河野へとバトンパスをした。

目の前の学芸に追いつこうと積極的に前半を飛ばしていった河野であったが、やはり200mを2本走っ

た疲労があったのだろうか、ホームストレート時点で学芸との差は開き後続との距離はどんどん縮まっていった。しかし順位は死守し、バトンは3走の藤田へ。

この時点でトップを独走する学芸とは大きな差が開いていたが、藤田は追いついてやろうと言わんばかりにハイペースで前半を突っ込んでいった。後半果たして持つか心配されたがそこはやはり400mの選手。無駄のない走りで後続を引き離し、4走へとバトンパスをした。

4走の箕島は400m、200mに出場し本日5本目のレースであったため、疲労はメンバーの中で最もあっただろう。しかし、接戦の中2位を死守する必要があった。前半冷静に落ち着いて入り、後続に距離を縮められつつあったが、ホームストレートに入り、疲労もピークの中粘りの走りを見せ見事2着でゴールした。全体で学芸に続き2位であった。

結果としては、良くも悪くも申請タイム通りの順位であった。しかし、部として対校戦にすべて勝利するという目標を掲げている以上、マイルで負けたことは反省するしかない。今回の悔しさをばねに今後の対校戦では短距離ではもっと貪欲に勝利を追求していきたい。



3走藤田(4年)から4走箕島(4年)へ

◎フィールド種目

9:30 男子三段跳 決勝

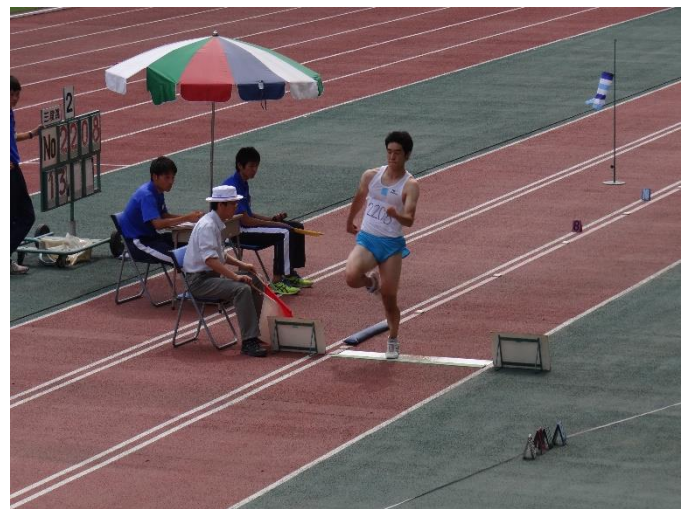
吉田(4年)、木下(2年)が出場した。出場を予定して

いた杉本(2年)は怪我のため棄権した。天候は晴れで気温が高く、風も悪くなくコンディションは良かった。両選手ともに先週の関東インカレに出場した後での今大会であった。

吉田は1本目に14m10台の跳躍。2本目に1本目を越える跳躍をしたが横のラインを踏み越えファールとなる。4本目でこの日一番の14m54を跳ぶ。その後6本目で4本目を越える跳躍を見せたがファールとなり全体3位として終了した。

木下は1、2本目とファールが続き迎えた3本目に14m60。4本目以降はファールと着地まで行わない跳躍で競技を終了し、14m60で全体2位であった。

両選手ともに1位を狙える実力だけだけに惜しい試合となった。今後の対校戦での活躍に期待したい。



木下(2年)

9:30 男子棒高跳 決勝

松下(4年)、戸部(2年)、三宅(1年)が出場した。バックストレートには観客がほぼおらず選手数も少なかったため、静かな試合だった。風は向かい風と追い風が入り替わっていた。

戸部は3m40まで十分な余裕を持ってクリアしていたが、次の高さで風が悪くなる。東京学芸大学の選手がパスをしている高さだったため、この高さを落とした戸部が4位となった。

松下は最初の高さ4m20から最高硬度のポールを使ってクリア。調子の良さを感じた。しかしこの日の松下はこのポールさえ軟らかく、4m40の跳躍は流れてしまい失敗。次はさらに硬いポールが使えるようだ。

三宅は4m40を2回目、4m60を1回目にクリアし、4m80に挑戦。安定感を欠き失敗したが、次の試合に期待が持てる。

9:30 男子円盤投 決勝

鍵本(4年)、土井(3年)、八木澤(2年)の出場。天候は晴れで投擲種目の中では朝一番だが気温も高めだった。1週間前の関東インカレのために調整をしていた鍵本と土井は疲れもあるだろうが時期的に好記録が期待され、円盤初出場の八木澤はどれほど投げられるか楽しみであった。

練習投擲から好調そうな鍵本は1投目から31m33の自己ベストでその時点で暫定1位。1投目終了時点でも2位をキープし、2投目で32m56と記録を伸ばした。1投目がうまくいかなかった土井は2投目で33m18をマークしその時点で暫定1位に躍り出たが、その後学芸大の2人の選手が本来の力を出して1位と2位は取られてしまった。八木澤は全てスタンディングで投げた。1投目は21m56と低調だったが3投目で24m42に記録を伸ばし33cm差でトップ8に滑り込んだ。

3名とも決勝では記録が安定して、鍵本が5投目と6投目で記録を伸ばし32m96の4位。土井は5投目で記録を伸ばし33m71の3位。八木澤は記録を伸ばせず24m42で8位だった。

鍵本は試合出場数が少ないのもあるがしっかりベストを更新できた。技術的に未熟なところが多くあったのでまだまだ伸びるだろう。土井はベストは出せなかったが33mを2度出せているので安定してきたと思う。ただ円盤のエースとしてはまだ記録が物足りない今後の活躍に期待したい。八木澤は初出場にしてはまずまずの記録であったので、今後はターンを身につけてさらに記録を伸ばして欲しい。



鍵本(4年)

10:30 男子砲丸投 決勝

鍵本(4年)、加藤(3年)、土井(3年)が出場した。申請記録では東京学芸大学の3人が頭ひとつ抜けておりその他は混戦が予想されるランキングであった。

鍵本、加藤は1投目から安定して9m台を投げ、3投終わって順調にトップ8に残った。土井は1,2投目で記録が伸びず、4投目以降が危ぶまれたが、3投目で記録を伸ばし、トップ8のラインを越えた。3投終わっての順位は、鍵本9m57で6位、加藤9m93で4位、土井9m24で7位であった。

4投目には鍵本、加藤の両人が会心の1投を見せた。鍵本10m27、加藤10m23と大幅にベストを更新する投擲となった。一方、土井は4投目以降も思うように記録を伸ばせない。しかし、最後の6回目の試技で9m84と自己ベストに迫る投擲を見せ、順位を1つ上げて競技終了。最終結果は、鍵本10m27で4位、加藤10m23で5位、土井9m84で6位で合計12点獲得した。

鍵本、加藤は大幅に自己ベストを更新し、土井も自己ベストに迫る投げであった。しかし、1、2、3位は東京学芸大学に独占され、3位の選手とも差が1m以上ある。ひとつの目標である東京学芸大学に勝つためには投擲パート全体が今よりもずっとレベルアップしなければならないだろう。

11:10 女子走幅跳 決勝

白形(4年)、内山(1年)の出場。天候は晴れで、日がさし、気温の高い絶好のコンディションで好記録が期待される。

白形は100mの予選を走りそのまま跳躍練習に入る。11:10 試合開始。白形は1本目に無風で5m02の跳躍を見せる。また、内山は5m44の跳躍を2本目に跳び、白形は4位、内山は3位で決勝に残る。

さらなる記録更新を狙いたい二人であったが、白形は人数が少なく跳躍順のまわりの早いことと、100mによる疲労からか、跳躍にキレがなくなってきたため、4本目をパスして残りにかけたが、5本目に5m00(+1.8)、6本目はファールと記録を伸ばすことができない。また、内山も決勝では記録を伸ばすことはできなかったため、白形は5m02の4位、内山は5m44の3位で競技を終えた。

どちらもPB更新はならなかったものの、これらに向けて良かった点や課題の出た試合であった。今後の対校戦での女子パートの活躍にも期待がかかる。

11:40 男子走高跳 決勝

寶田(3年)、赤塚(1年)が出場した。福永(4年)は関東インカレの怪我により欠場となった。天候は晴れ、非常に暑く競技をするにはあまり向いてない天候であった。

走高跳の試技は1m60から始まり、寶田は1回で試技を成功させた。赤塚は試技を1m65から始めこれを1回でクリア。2人とも1m65を成功させ、1m70に臨んだ。両人とも1m70、1回目を失敗し2回目以降の試技を行った。赤塚はこの高さを2回目で成功させた。寶田は踏み切り位置が遠く、臀部が当たってしまい失敗してしまう。3回目も同様の失敗をし以降の試技を終了した。赤塚は1m75を挑戦したが、足首の痛みによりそれ以降の試技を棄権した。

結果は寶田12位、赤塚11位。走高跳びとしては不

甲斐ない記録となったが、両人とも翌年以降チャンスがあるので、この経験をバネに次回以降記録を伸ばしていてもらいたい。

13:00 男子やり投 決勝

跳4松下、短4加来、跳3寶田の3名が出場した。投擲の奥村、加藤、八木澤の3名はそれぞれケガのために欠場した。申請記録上は3名ともエイトラインを超えるのは厳しいがどこまで食い下がるか、そして加来、寶田の両名は十種競技に備えてどこまで実力を伸ばせるかがポイントであった。

寶田は1投目で30m23を記録し、投擲パートからのアドバイスで修正を加えるも残りは右に逸れてファールで14位でフィニッシュ。松下も今までに助っ人で投げた経験から40mは行けるかと思われたが2投目の35m85で12位。加来も1投目で37m96で幸先の良いスタートを切ったものの2投目で肘を痛めてパスし、11位で終わった。

今回助っ人として出てもらった3名には松下は棒高跳びの選手として、加来、寶田は十種競技の選手としてさらなる成長を期待するとともに、出られなかった正選手たちに今季の復活を期待していきたい。

13:30 男子走幅跳 決勝

深澤(4年)、萩尾(3年)、木下(2年)が出場した。天候は晴れ、程よい追い風も吹いており記録が望めるコンディションであった。

1本目の試技で萩尾が追い風参考ながらも6m50の自己ベストを出し、その後深澤、木下も6m70台の記録を残して3人全員がベスト8に残った。

4本目以降は木下が7m00(+2.8)まで記録を伸ばして全体の3位。木下は関カレ、さらに午前中に三段跳にも出場して疲れがある中で良い跳躍を見せた。

深澤は関カレの疲れもあり6m77の記録で全体の5位にとどまったが、対校選手としてしっかり得点をしてくれた。

萩尾は追い風参考ではあるが下馬評を覆す跳躍で7位となって得点し、チームに勢いをつけた。

走幅跳としてはほぼ想定通りの得点を取ることができた。この良い流れで今後の対校戦での活躍にも期待したい。

3. 試合結果

記録は後ほど HP 上でご確認ください。

4. 自己記録更新者一覧

4/10 第31回焼津みなとマラソン

ハーフ 油井星羅(2年) 74'45

ハーフ 肱岡佑(2年) 76'30

4/16,17 第二回筑波大競技会

800m 荒木玲(2年) 2'35"29

4/23,24 第249回日本体育大学長距離競技会

800m 早川航平(3年) 1'57"89

800m 下村麟平(3年) 1'59"97

800m 藤原大樹(3年) 2'00"33

800m 阿部龍太郎(5年) 2'08"93

800m 升野裕史(2年) 2'08"93

800m 高石涼香(2年) 2'14"93

800m 荒木玲(2年) 2'31"28

1500m 妹背雄太(3年) 3'59"14

1500m 大島知之(2年) 4'13"69

1500m 長谷川祐輝(2年) 4'17"33

1500m 小林龍史(2年) 4'18"19

1500m 坂口諒(2年) 4'20"39

1500m 富原健太(3年) 4'23"78

1500m 遠藤幸生(3年) 4'23"84

1500m 藤原ゆか(2年) 4'59"21

5000m 福島洋佑(5年) 14'30"73

5000m 妹背雄太(3年) 15'20"36

5000m 坂出竜弥(4年) 15'21"43

5000m 田村和也(3年) 15'29"07

5000m 伊東祐輝(3年) 15'42"77

5000m 小田貴大(3年) 17'11"18

10000m 織原健人(4年) 31'44"89

10000m 油井星羅(2年) 35'24"24

4/30 第2回国土館大学競技会

400m 藤田健一(4年) 50"19

10000mW 櫻井悠也(4年) 47'29"20

5/1 第1回日本大学競技会

200m 後藤裕瑛(3年) 23"30(+0.3)

砲丸投 加藤輝仁(3年) 9m28

ハンマー投 鍵本直人(4年) 40m92

5/3,4 第93回日本体育大学陸上競技会

400m 阿部龍太郎(5年) 55"69

1500m 長谷川祐輝(2年) 4'16"60

5/7,8 第79回東京陸上競技選手権大会兼国体代表選手選考会

1500m 福島洋佑(5年) 3'56"43

1500m 坂出竜弥(4年) 4'10"30

5/14,15 第250回日本体育大学長距離競技会

800m 妹背雄太(3年) 1'56"17

800m 小山倫之(2年) 2'03"59

800m 荒木玲(2年) 2'27"01

1500m 大島知之(2年) 4'12"61

1500m 坂口諒(2年) 4'14"95

1500m 長谷川祐輝(2年) 4'15"43

5000m 妹背雄太(3年) 15'13"34

5/19,20,21,22 第95回関東学生陸上競技対校選手権大会

200m 藤田旭洋(5年) 21"39(-1.5)

800m 高石涼香(2年) 2'13"93

3000mSC 福島洋佑(5年) 9'16"96

三段跳 木下秀明(2年) 14m44(+1.7)

棒高跳 松下周平(4年) 4m50

5/29 第64回東京地区国公立大学対校陸上競技大会

100m 松本大樹(4年) 10"90(-1.5)

100m 後藤裕瑛(3年) 11"47(0.0)

100m 斎藤嘉紀(2年) 11"98(-0.1)

100m 白形優依(4年) 13"22(-0.3)

200m 松本大樹(4年) 22"00(-1.0)

200m 箕島頌(4年) 22"48(0.0)

400m 森本淳基(4年) 48"85

400m 箕島頌(4年) 50"22

800m 坂口諒(2年) 2'00"48

800m 長谷川祐輝(2年) 2'01"84

800m 遠藤幸生(3年) 2'11"18

800m 高石涼香(2年) 2'13"91

800m 荒木玲(2年) 2'25"83

1500m 妹背雄太(3年) 3'55"74

1500m 加藤騎貴(4年) 4'00"64

3000m 高石涼香(2年) 10'42"47

3000m 藤原ゆか(2年) 10'47"13

5000mW 櫻井悠也(4年) 23'32"37

400mH 今井樹宏(3年) 63"96

三段跳 木下秀明(2年) 14m60(+0.5)

砲丸投 鍵本直人(4年) 10m27

砲丸投 加藤輝仁(3年) 10m23

円盤投 鍵本直人(4年) 32m96

5. 2016年度部内五傑

男子 100m

1 藤田旭洋(5年) 10"63(-1.2) 5.8

2 泉悠太(5年) 10"74(+2.0) 3.19

3 松本大樹(4年) 10"90(-1.5) 5.29

4 稲葉啓人(5年) 10"98(-0.9) 5.19

5 小嶋健太郎(2年) 11"32(-0.3) 4.2

男子 200m

1 藤田旭洋(5年) 21"39(-1.5) 5.22

2 泉悠太(5年) 21"90(+1.1) 5.21

3 松本大樹(4年) 22"00(-1.0) 5.29

4 稲葉啓人(5年) 22"02(+1.1) 5.21

5 河野太郎(3年) 22"69(-1.0) 5.29

男子 400m

1 森本淳基(4年) 48"85 5.29

2 藤田健一(4年) 50"19 5.1

3 箕島頌(4年) 50"22 5.29

4 加来宗一郎(4年) 50"52 3.19

5 河野太郎(3年) 51'31 5.17

男子 800m

- 1 軽部智(4年) 1'52"19 5.22
- 2 加藤騎貴(4年) 1'54"49 4.23
- 3 妹背雄太(2年) 1'56"17 5.14
- 4 早川航平(3年) 1'57"89 4.23
- 5 内田智拓(1年) 1'58"12 5.21

男子 1500m

- 1 近藤秀一(2年) 3'53"64 4.2
- 2 軽部智(4年) 3'55"05 3.20
- 3 妹背雄太(2年) 3'55"74 5.29
- 4 福島洋佑(4年) 3'56"43 5.7
- 5 加藤騎貴(4年) 4'00"64 5.29

男子 5000m

- 1 近藤秀一(2年) 14'12"37 4.2
- 2 福島洋祐(5年) 14'30"73 4.24
- 3 妹背雄太(3年) 15'13"34 5.15
- 4 織原健人(4年) 15'14"50 4.2
- 5 坂出竜弥(4年) 15'21"43 4.24

男子 10000m

- 1 近藤秀一(2年) 29'22"82 4.23
- 2 織原健人(4年) 31'44"89 4.23
- 3 大日方孝輝(3年) 32'59"31 4.23
- 4 須藤克誉(3年) 33'31"85 4.23
- 5 油井星羅(2年) 35'24"24 4.23

男子 5000mW

- 1 渡邊成陽(4年) 20'43"63 5.29
- 2 宇野文貴(4年) 22'09"42 5.29
- 3 堀江駿(2年) 23'31"78 5.29
- 4 櫻井悠也(4年) 23'32"37 5.29

男子 10000mW

- 1 渡邊成陽(4年) 42'00"47 5.21

2 宇野文貴(4年) 45'09"14 3.19

3 棟重賢治(3年) 46'24"64 4.30

4 櫻井悠也(4年) 47'29"20 4.30

5 堀江駿(2年) 49'17"09 4.30

男子 110mH

- 1 加来宗一郎(4年) 15"79(-0.7) 5.19
- 2 寶田雅治(3年) 15"99(+0.7) 4.2
- 3 杉森康平(6年) 16"92(-0.8) 5.29

男子 400mH

- 1 加来宗一郎(4年) 54"55 5.29
- 2 越村真至(5年) 56"27 4.2
- 3 今井樹宏(3年) 63"96 5.29

男子 3000mSC

- 1 福島洋佑(5年) 9'20"71 4.2
- 2 荒田彰吾(4年) 9'43"35 4.2
- 3 妹背雄太(3年) 9'51"26 3.27
- 4 伊藤慎(2年) 10'08"79 4.29
- 5 福永亮(3年) 10'09"89 3.27

男子 4×100mR

- 1 泉(5年)-西村(4年)-松本(4年)-藤田(旭)(5年) 40"66
5.21
- 2 小嶋(2年)-稲葉(5年)-松本(4年)-藤田(旭)(5年) 41"46
4.2

男子 4×400mR

- 1 越村(5年)-森本(4年)-藤田(健)(4年)-箕島(4年)
3'18"54 5.21
- 2 加来(4年)-森本(4年)-河野(3年)-越村(5年) 3'20"98
4.2

男子 走幅跳

- 1 西村智宏(4年) 7m40(+0.2) 5.1
- 2 深澤竜太(4年) 6m99(+1.2) 4.16
- 3 木下秀明(2年) 6m89(-1.0) 5.29

4 草野恒平(3年) 6m65(+0.6) 3.19

5 萩尾公貴(3年) 6m37(+0.6) 5.1

男子 三段跳

1 吉田侑弥(4年) 14m68(+1.0) 5.20

2 木下秀明(2年) 14m60(+0.5) 5.29

3 杉本恭一(2年) 13m06(+1.8) 3.20

4 毛利冬悟(2年) 12m75 4.6

男子 走高跳

1 福永大輔(4年) 2m03 4.6

2 木下秀明(2年) 1m85 4.6

3 赤塚智弥(1年) 1m70 5.29

4 寶田雅治(3年) 1m65 5.29

男子 棒高跳

1 三宅功朔(1年) 4m60 5.22

2 松下周平(4年) 4m50 5.22

3 戸部潤一郎(2年) 3m40 4.6

4 寶田雅治(3年) 3m00 3.28

男子 砲丸投

1 奥村俊樹(4年) 10m83 5.19

2 鍵本直人(4年) 10m27 5.29

3 加藤輝仁(3年) 10m23 5.29

4 土井雅人(3年) 9m84 5.29

男子 円盤投

1 土井雅人(3年) 33m75 5.21

2 鍵本直人(4年) 32m96 5.29

3 八木澤光大(2年) 24m42 5.29

男子 やり投

1 八木澤光大(2年) 42m32 4.2

2 加来宗一郎(4年) 37m96 5.29

3 松下周平(4年) 35m85 5.29

4 加藤輝仁(3年) 34m74 4.2

5 寶田雅治(3年) 30m23 5.29

男子 ハンマー投

1 鍵本直人(4年) 40m92 5.1

女子 100m

1 白形優衣(4年) 13"22 5.29

2 笠村洋子(4年) 13"77 5.29

3 石丸夏奈(2年) 14"93(0.0) 3.27

女子 400m

1 河原未来(4年) 66"32 3.19

女子 800m

1 高石涼香(2年) 2'13"91 5.29

2 荒木玲(2年) 2'25"83 5.29

3 河原未来(4年) 2'32"94 4.23

女子 1500m

1 高石涼香(2年) 4'44"68 3.28

2 藤原ゆか(2年) 4'59"21 4.23

女子 3000m

1 高石涼香(2年) 10'42"47 5.29

2 藤原ゆか(2年) 10'47"13 5.29

女子 100mH

1 笠村洋子(4年) 17"08 5.29

女子 400mH

1 坪浦諒子(3年) 61"95 5.21

女子 4×100mR

1 高橋(3年)-白形(4年)-笠村(4年)-坪浦(3年) 50"94 5.5

女子 走幅跳

1 内山咲良(1年) 5m50(+0.1) 4.16

2 白形優依(4年) 5m02(0.0) 5.29

学生主務 宇野文貴

6. 主務より

6.1 応援OB・OG紹介

5/29に町田市立陸上競技場で行われました国公立戦に際し、応援に駆けつけてくださったOB・OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

H3年卒 小野満
H13年卒 岡野浩行
H23年卒 西田昂広
H24年卒 月崎竜童
H27年卒 筒井隆徳
H27年卒 原知明
H28年卒 小南直翔

ご多忙の中応援にお越しくございましたこと、現役部員一同心より御礼申し上げます。

6.2 連絡先

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長：斎藤誠二
TEL : 03-5370-9370
Mail : Seiji_Saito@suntory.co.jp
学生主務：宇野文貴
〒113-0024 東京都文京区西片1-10-10カーサ西片 103号室
TEL : 090-4687-6807
Mail : shumu@uttf.org
学生主務補：河原未来
Mail : uttf.shumuho@gmail.com

部便り郵送不要の方は、お手数ですが学生主務補までご連絡下さい。

この部便りは陸上運動部ホームページ内の「OBOG向け」からもご覧になれます。

URL : <http://www.uttf.org>

部便りに関するご意見、ご感想は部便り主任の坂出までお送り下さい。

部便り主任 坂出竜弥

(Mail: rsakade.uttf@gmail.com)